

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成30年7月 12日

三田市議会議長 今北義明 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	印
		議員名	
派遣者氏名			
視 察 先	〒816-0804 春日市原町3-1-5 春日市役所		☎092-584-1111
	〒720-8501 福山市東桜町3-5 福山市役所		☎084-928-1123
調査事項 (調査目的)	春日市：西鉄大牟田線連続立体交差事業・春日原駅周辺整備事業 福山市：福山アンバサダー・副業による市職員制度について		
日 時	平成30年 7月 3日（火曜日）～平成30年 7月 5日（木曜日）		
視察先対応者	・春日市 緒里哲司 議会事務局長 渡邊一雄 都市整備部道路管理課長 岩田秀昭 都市整備部道路管理課課長補佐 松崎裕信 都市整備部道路管理課街路担当 ・福山市 佐藤洋久 議会事務局長、表 宏哉 議事調査課長 藤原研二 企画財政局企画政策部企画政策課企画調整担当課長 八田裕司 企画財政局企画政策部企画政策課主事 中澤雅志 市長公室情報発信課長 原幹二郎 市長公室情報発信課主事		
添付資料	・春日市、福山市視察先対応者名刺（写） ・春日市説明資料抜粋（写）全体資料は議員が保存、佐々木議員報告書に添付 ・福山市 説明資料抜粋（美藤議員報告書に添付） ・		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）

調査日時	30年 7月 4日(水) 10時 30分～ 12時 00分
視察先	〒816-0804 春日市原町3-1-5 春日市役所 ☎092-584-1111
調査事項	西鉄大牟田線連続立体交差事業・春日原駅周辺整備事業
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>○西鉄大牟田線連続立体交差事業</p> <p>施工者は福岡県で、延長割で春日市が18.98%、大野城市81.02%の地元市負担金がある。</p> <p>連続立体交差事業目的</p> <p>① 連続立体交差のメリットは、踏切の除却により交通渋滞や踏切事故が解消される。</p> <p>② 踏切警報音が無くなり高架による騒音振動が軽減される。</p> <p>③ 高架下空間の利用ができる。</p> <p>駅周辺整備事業目的</p> <p>① 駅前広場等アクセス道路による交通ネットワークの強化</p> <p>② 高架下でつながるまちの一体的整備</p> <p>③ 歩車分離で快適な買い物空間</p> <p>④ 市の顔となる駅前の景観づくり</p> <p>県施行であるため国庫補助金の補助額や施工期間、施工箇所の変更などに市負担金の額が変更となるため、起債、基金、一般財源による柔軟な対応ができる財源となっている。</p> <p>現電車の運行を妨げないため、仮線方式と直上(現線路上空)の二種類の方式をとり電車運行終了から始発までの間で工事実施を行っているが、工事準備及び後片付けの時間を考え、実際は3時間ぐらいでの施工となるため、工事工程は長くなる傾向にはあるが、メリットは大きい。</p> <p>事業費は相当高くなるが、踏切渋滞や事故等がなくなることから、鉄道分断の市街地がひとつになり魅力的で快適なまちが再生される。このことから、三田市でも非常に参考になる部分が多くあることから、実施に向けた検討はするべきであると思われる。</p> <hr/> <p>本所においても府役所横のJR踏切は通勤時間を中心に影響が大きい  今回の視察事例では県施工であり国補助金の活用であり初に大きな負担とぼて  いらいではあるが、本所においても渋滞防止や事故解消の観点でも検討する  価値はあるのではと考える</p>	

調査日時	平成30年7月5日(木) 13時00分～15時00分
視察先	〒720-8501 福山市東桜3-5 福山市役所 ☎084-928-1123
調査事項	1. 福山市の情報発信(福山アンバサダー)について 2. 副業による市職員制度について
(調査結果の概要及び所見)	
<u>&lt;1. 福山市の情報発信(福山アンバサダー)について&gt;</u>	
<p>福山市では戦略的な情報発信のあり方の検討を行うにあたり広く有識者の意見を聴取したそのため情報発信戦略会議を2017年(平成29年)2月9日に立ち上げた。</p> <p>委員は、市長と以下の4名(県:総括監、民間3名)</p> <p>情報発信戦略会議は1年間、全部で5回開催</p> <p>第1回:情報を一元的に管理・発信する組織体制と専門家による支援体制の整備や職員の意識改革の必要性など</p> <p>第2回:情報発信戦略のポイントとして私内外に向けて発信していく施策や資源の選択や優先付の必要性・現場の詳細把握など</p> <p>第3回:現状把握としてインターネット調査と重点広報テーマの選定</p> <p>第4回:(仮称)福山市総合情報発信戦略基本方針 骨子案と重点候補テーマ</p> <p>第5回:福山市情報発信戦略基本方針の策定、これまでの情報発信に係る取組と成果</p> <p>福山市情報発信戦略基本方針…資料1 情報発信力強化に関する取組と成果について…資料2</p> <p>福山市では、2017年度(平成29年度)に「活力と魅力に満ちた輝く街」を目指して第5次福山市総合計画第一期基本計画を策定し、「住んでみたい・住み続けたい街づくり」を目指して取り組んでいる。それを実現するために、市民の方や市外の方へ本誌の魅力を市政情報を適切に届け、キャッチしてもらわなければ、行動を起こしてはもらえない。情報は「伝える」で終わりではなく、「伝わっている」ことにこそ意味がある。具体的に言えば、市の魅力や事業内容が伝えたい人に伝わり、注意を引き、行動を促して事業効果を最大化させることを意図した情報発信であるべきである。</p> <p>以前のようにマスメディアだけが多大な影響力を持っている時代ではなく、市民等の情報と取得のスタイルも多様化し、活用されているツールも多様化している。紙メディア、Webメディア、マスメディアなどを複合的に活用したり、情報化の連携を図ったりすることなどで一層効果的な情報発信にすることができる。</p> <p>福山市では情報発信力の強化に重点的に取り組むこととし、有識者の意見をいただきながら取り組みを進めてきた。これまでの取り組みと今後進めていく取り組み、また、各職員の中に戦略的な情報発信を根付かせるための基本的な考え方をまとめたものが福山市情報発信戦略基本方針である</p>	

## 組織体制の整備

情報発信を統括する組織として、これまで都市ブランド戦略やシティプロモーションなどを行っていた「ふくやま魅力発信課」と、広報誌の発行や広報テレビ・ラジオの企画、ホームページの運営などを行っていた「秘書広報課(広報担当)」を統合したうえ、戦略的な情報発信の推進に取り組む「情報発信戦略担当」を加えて、情報を一元的に管理・発信する組織として「情報発信課」を新設した。

## 情報発信媒体の強化

1 自主媒体、2 パブリシティ(記者会見等)、3 広告、4 口コミ(福山アンバサダー)

## 戦略的な情報発信に関する基本的な考え方の策定

策定日: 2018年(平成30年)2月

内容: … (資料: 福山市情報発信戦略基本計画: 参照)

## 現状把握とテーマの設定のため、インターネットを活用した認知度調査

調査対象: 福山市在住の20~70代の男女306人

首都圏在住の20~70代の男女604人

調査期間: 2017年(平成29年)6月16日(金)から23日(金)

質問項目及び結果: 資料参照

## ○福山アンバサダー

アンバサダーのマーケティング活用が必要とされる背景として

信頼されている情報元は

1位: 知人のオススメ(口コミ)92%

2位: 消費者のオンラインレビュー70%

3位: 新聞記事等の編集コンテンツ・ブランドウェブサイト58%

5位: 許可したEメール50%

商品を実際に使う人の声(口コミ)やオンラインレビューが最も信頼がある。

4年間のマス広告の信頼度変化では、最近のマスコミに対する信頼が大きく下がり、2009年では70%だったものが2012年は47%まで下がっている。

そのため福山市ではブランドと強いつながりを持つ、福山市を好きな人をアンバサダーとして商品を好きになってもらって口コミを発信する仕組みとして設けたものである

## ○福山アンバサダーの募集

登録は、福山市公式SNSにいいねフォローした上で応募フォームから応募する

Facebook・Twitter・Instagramの3種類である

認定証がメールで届き、#福山アンバサダーでSNSやブログで福山市の魅力を発信する。

応募資格は福山市が大好きで情報発信力のある方としている  
応募期間は 2017 年 8 月 28 日から 9 月 25 日が第一次募集  
2017 年 10 月 13 日から 10 月 31 日までが第二次募集  
2018 年 5 月 1 日から 2018 年 5 月 14 日までが第三次募集でいずれも終了している  
現在認定者数は 404 名総フォロワーは 144 万人(2018-06-01 現在)

福山アンバサダーが投稿したものは、以下の媒体で反映。

Twitter ・ Facebook ・ Instagram ・ アメーバブログ ・ 広島県営 SNS 日刊わしら

アンバサダーのメンバーには

日経 BP 総研の所長、広島テレビアナウンサー、アーティストラジオ DJ、ミステリー作家、タレント、映画監督、現代美術家、よしもと広島、オリンピックメダリスト、地域プロデューサー、アスリート、日本総研研究員など

アンバサダーミーティングにより、福山市で一回、大阪で 1 回、市を愛してくれる人の絆を深めている。

#### ◎所見

激しい都市間競争が展開される中、各市町の魅力をアピールする情報発信は大切なことと考える。福山市では情報発信の主体となる庁内組織を確立した上で、情報発信についての基本的な考え方を策定し、市民や消費者を巻き込んで福山市の魅力を発信されている。

「伝える」でなく「伝わっている」ことを大切にしているとの発言が印象に残った。本市においても、情報発信のあり方について、今一度見直す時期に来ているのではないかと感じました。

#### < 2. 副業による市職員制度について >

全国初！民間プロ人材との攻める政策推進～兼業・副業による人材獲得の新しいカタチ  
転職サイトである㈱ビズリーチを介して 2017 年 11/15～12/12 募集

◎政府が働き方改革で推進する兼業・副業を地方自治体が体現した。

日本初！福山市が兼業・副業限定で戦略顧問募集

～民間ノウハウを自治体へ、プロ人材が地域を改革～

人口減少対策などにおいて、新たな発想による攻めの施策を企画・実行していくため、民間企業の第一線で活躍するプロフェッショナル人材(民間プロ人材)を副業・兼業限定で募集した。国の副業制度を活用し、民間の転職サイトで情報発信した。

市の特別顧問として 1 人を募集したところ、395 人の応募があり一次審査で 20 人に、そして最終的に 5 人を採用した。5 人の構成は男性 3 人女性 2 人で以下の通り。

①男性：外資系の製薬会社分析を仕事にしている

- ②女性：メディア系の法人営業を行っている
- ③男性：50代産業関係の官民連携を図っている企業
- ④女性：大阪で食品開発を行う分析の仕事を行っている
- ⑤男性：イマジカと言うVXやCGを扱う会社

待遇は、特別顧問として、4日/月、報酬は2.5万円/日+交通費

戦略監として、市のプロパーから月に8日間来庁する人をリーダーに、ネットワークを大切に、オープン講座や本業のノウハウなどを伝授してもらう。

現在若者の地元定着や女性の活躍促進また子育て支援などの分野において課題の分析施策の効果検証立案などに取り組んでいる

全国初の取り組み注目度が高く、多くのメディアに取り取り上げられた。

#### ○取り組みの効果

- ・人材獲得競争が激化してる中優秀な人材を米獲得できたこと
  - ・専門知識に基づいたデータ分析や新たな視点による課題の発見が行えた
- 今後、関連施策を企画・実行していく
- ・職員の意識改革が図れた
  - ・福山市の知名度向上全国初の取り組みが注目され様々なメディアで紹介された

#### 創意・工夫した点

人口獲得競争が激化する中、優秀な民間の人材を市職員として獲得することが困難であり「副業・兼業」という新たな切り口で募集した。応募者は、自分の経験・スキルを地域貢献に活かしたいと考える民間人材が予想以上に多かった。

#### ◎所見

民間のノウハウを自治体経営に取り入れる策として大いに注目できると考える。各々の分野において高いスキルを持った民間人を副業として雇用することにより経費も安価で済ませられる。本市においても「副業・兼業」を可能とする制度の活用により、市全体の活性化を目指してみてもどうか。

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)